



第858回会誌編集委員会（10月23日）

本誌11月号、12月号の編集方針、投稿原稿の審査、新規原稿の取扱い並びに水道協会雑誌の編集企画について審議した。

第21回水道 GLP 認定委員会（10月30日）

奈良県水道局の水道 GLP 認定について審議を行い、審議の結果、水道 GLP 認定を決定した。

水道 GLP 認定証授与式（11月1日）

水道 GLP 認定委員会で認定が決定した吹田市水道部浄水室水質課の認定証授与式を日本水道協会専務理事室において行った。



平成19年度水道技術管理者研修会（11月1日・2日）

約170名の参加を得て、水道事業の現況と技術的課題、クリプトスポリジウムとUV処理、浄水処理の現状と今後の方向について研修が実施された。

本研修会では毎年特別講師として各界の著名な方に講演を依頼しており、今回はプロゴルファーの金井清一氏が「目標達成のための自己管理と意識づけ」と題して講演を行った。



平成19年度水道技術者研修会（中級コース：11月5日～11月16日）

正会員及び賛助会員の技術職員（水道歴概ね3年以上）の方々約100名の参加を得て、「水道経営」「水道計画」「水道基礎工学」「取水・貯水施設」「導・送・配水施設」「浄水施設」「漏水防止」「機械設備」「電気設備」「計装設備」「水質管理」「水質検査」「給水装置」「水道技術の現状と課題」について研修を実施した。



第170回常任理事会（11月6日 於：パシフィコ横浜アネックスホール）

大谷横浜市水道事業管理者から総会開催地代表挨拶の後、本会副会長の篠田新潟市長が議長となり議案の審議に入った。第1号議案「日本水道協会第76回総会の運営について」、第2号議案「次期総会の開催地について」、それぞれ事務局より配付資料に基づき詳細な説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。また、次期開催地に内定した西部名古屋市水道事業管理者より歓迎の挨拶があった。



第76回総会（11月7日～9日 於：パシフィコ横浜国立大ホール）

第1日目（11月7日）

開会式においては、開催地代表として中田横浜市長、日本水道協会を代表して本会副会長の篠田新潟市長から挨拶があり、次いで厚生労働大臣（代理：山村健康局水道課長）、総務大臣（代理：井上自治財政局公営企業経営企画室長）、国土交通大臣（代理：粕谷土地・水資源局水資源課長）、環境大臣（代理：河崎水・大気環境局水環境課長）、藤代横浜市議会議員、幡掛日本水道工業団体連合会会長からの来賓祝辞があった。



総会会場：パシフィコ横浜国立大ホール



開会式



日本水道工業団体連合会水道展



歓迎挨拶：
中田横浜市長



開会挨拶：
副会長篠田新潟市長



厚生労働大臣祝辞：
山村健康局水道課長



総務大臣祝辞：
井上自治財政局公営
企業経営企画室長



国土交通大臣祝辞：
粕谷土地・水資源局
水資源課長



環境大臣祝辞：
河崎水・大気環境局
水環境課長



祝辞：藤代横浜市議会
議長



祝辞：幡掛日本水道
工業団体連合会会長



議長：大谷横浜市
水道事業管理者



監査報告：坂崎氏



事務常設調査委員会報告：
鈴木東京都水道局総務
部長



工務常設調査委員会報告：
安藤大阪市水道局理事
部長



衛生常設調査委員会報告：
佐藤東京都水道局水質
センター所長



退任挨拶：
赤川専務理事



新任挨拶：
御園新専務理事



厚生労働大臣表彰



日本水道協会会長表彰



次期開催地挨拶：西部
名古屋市水道事業管理者



記念講演（第1部）：
藤田賢二氏



記念講演（第2部）：
C. W. ニコル氏

続いて表彰式が行われ、はじめに厚生労働大臣表彰として山村健康局水道課長より中村一誠氏外77名の受章者に対し表彰状と記念品が贈られた。これに対して受章者を代表して、篠武夫氏より謝辞が述べられた。

次いで、日本水道協会会長表彰が行われ、副会長の篠田新潟市長から功労賞として小川敏雄氏外19名、特別賞として石井清氏外107名、有効賞として小泉明氏外8名、勤続賞として白田貢一氏外871名に対して表彰状と記念品が贈られた。これに対して全会長表彰受賞者を代表し、長谷川守氏から謝辞が述べられた。

表彰式の後、定款の定めにより開催地の正会員代表として大谷横浜市水道事業管理者が議長となり議事に入った。

はじめに会務報告として、事務局より平成18年度本会事業の活動状況について、配布資料に基づく詳細な説明があった。

続いて、常設調査委員長報告として、事務常設調査委員長報告が鈴木東京都水道局総務部長より、工務常設調査委員長報告が安藤大阪市水道局理事より、衛生常設調査委員長報告が佐藤東京都水道局水質センター所長より、それぞれ報告があった。

昼食休憩後、本総会が役員改選期に当たるため、議長から役員選任方法について諮ったところ、従来の慣例と時間の関係から役員選考委員会を設けて選考を付託し、その結果を

受けて総会で審議決定したい旨の動議が提出され、満場一致でこの動議が採択された。

続いて、議案の審議に入り、第1号議案「平成18年度日本水道協会会計決算の認定」、第2号議案「平成20年度日本水道協会会計予算」について、事務局より提出資料に基づく詳細な説明があり、慎重審議の結果、両案とも原案のとおり決定した。なお、第1号議案については、事務局の説明に続き監事を代表して坂崎貞夫氏から監査報告があった。

次に、午後の休憩時間に開催された役員選考委員会の選考結果について、西部役員選考委員会委員長（名古屋市水道事業管理者）より報告があり、報告のとおり新役員を決定した。続いて本総会をもって退任される赤川専務理事、新役員を代表して御園新専務理事より挨拶があった。

その後、会員提出問題討議に入り、補助関係として問題1「水道事業に対する財政支援の拡充及び補助要件の緩和について」、問題2「水道施設の再構築事業に対する新たな財政支援体制の確立について」が一括上程され、厚生労働省の意見発表があった後、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に災害対策関係として、問題3「水道施設の震災対策等に対する行財政支援について」、問題4「水道施設の安全強化のための施設整備に対する財政支援について」、問題5「広域的な災害応援体制の確立について」、問題6「水道施設に対する地震保険制度の創設について」が一括上程され、厚生労働省の意見発表、事務局の説明があった後、討議の結果、問題3～5については関係当局に陳情することと決定し、問題6に関しては事務局において調査研究を進めることに決定した。なお、問題5に関連し「災害発生時における官民連携体制の確立に向けて」緊急提案があり、事務局において検討を行うことに決定した。また、先般発生した新潟中越沖地震の被災地を代表して、品田柏崎市ガス水道局長よりお礼の挨拶があった。引き続き、起債・繰上関係として、問題7「起債融資条件等の改善及び一般会計出資債に係る地方交付税措置の拡充について」、問題8「公営企業借換債制度の拡充及び要件緩和並びに政府資金の借換制度創設等について」が一括上程され、総務省、公営企業金融公庫の意見発表があった後、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

第2日目（11月8日）

前日に引き続き会員提出問題の討議が行われ、水源関係として、問題9「ダム等の水源施設の開発促進について」、問題10「ダムの建設に関する事業費圧縮等の要請について」、水質関係として、問題11「水道水源の水質保全対策の推進について」、その他として、問題12「地下水等による専用水道の利用に係る法整備及び対応について」、問題13「水道施設維持管理積算要領（仮称）の作成について」、問題14「一般競争入札に関する不良不適格業者の排除について」、問題15「水道事業関係団体の国等に対する要望書提出の一本化について」、問題16「水道料金のクレジット支払いに係る手数料について」が順次上程され、厚生労働省、国土交通省、環境省、水資源機構の意見発表、事務局の説明があった後、

討議の結果、問題9～12及び16については関係当局に陳情することと決定し、問題13～15については、事務局において調査研究を進めることに決定した。

次に、次期総会開催地の決定について、定時総会の開催地は、定款の定めにより、あらかじめ前年の総会で定めることとなっているため、第170回常任理事会に諮った結果、名古屋市と内定していただいていること等を事務局から報告し、報告のとおり満場一致で名古屋市に決定した。続いて、次期総会開催地を代表して西部名古屋市水道事業管理者より挨拶があった。

続いて閉会式に入り、日本水道協会を代表して赤川専務理事より挨拶があった。

なお、午後には、第1部「水道再生への途（講師：藤田賢二東京大学名誉教授）」、第2部「人と自然の共生（講師：C. W. ニコル氏）」と題した記念講演を開催した。

第3日目（11月9日）

事務局設定2コースに分かれ、横浜市の水道施設等を視察した。

第614回抄録委員会（11月13日）

本誌2月号に掲載する海外文献の抄録内容及び1月号に掲載する海外文献目録の和文題名等について審議した。また、本年10月にオーストラリアにおいて開催された第2回IWA-ASPIRE 地域会議発表論文の抄録方針を決定した。